２０２３年度
CSRレポート

いい会社をつくりましょう
～たくましく　そして　やさしく～

伊那食品工業株式会社
INA FOOD INDUSTRY Co.,Ltd.

1. 編集方針・トップメッセージ

2. 受賞歴・掲載記事

3. 会社概要

4. CSR方針

5.コンプライアンス規範

6. リスクマネジメント

7. 調達方針

8. 人権と雇用

9. 環境方針と地域貢献

Ⅰ.編集方針・トップメッセージ

レポートに先立ち、伊那食品工業株式会社の最も大切にしている価値観を紹介いたします。

伊那食品工業株式会社では、会社経営の目的は、社員をはじめとする会社と関わる全ての人を幸せにすることだと考えます。売上や利益の成長は企業の目的ではなく、幸せを達成するための手段に過ぎず、企業にとって最も重要なのは永続することだと考えます。

毎年、樹木が年輪を重ねるように着実に成長し、その規模に応じて社員や仕入先、得意先、社会へ貢献をする考えを『年輪経営』と呼び、社長の塚越 寛(現最高顧問)のもと、脈々と受け継がれ、ファミリーと互いを呼び合う社員と共にその理念を実践して参りました。

昨今、国連グローバルコンパクトやSDGsを筆頭に、企業に対するビジネスの持続可能性や環境問題、労働や人権に対する倫理感などが重要視されています。弊社にとってのCSRは、創業以来、取り組み続けてきた年輪経営の活動の一部であり、本レポートでは、塚越最高顧問が未来の経営者とファミリーへ向けて執筆した書籍「いい会社をつくりましょう」、「末広がりのいい会社をつくる」からの引用と、弊社が今まで継続してきた活動を中心に紹介をさせて頂きます。

伊那食品工業株式会社
代表取締役社長
塚越 英弘

2. 主な受賞歴や掲載記事

1996年	• 塚越寛（現最高顧問）が日刊工業新聞社主催の優秀経営者顕彰にて最優秀経営者賞を受賞
2003年	• 塚越寛が黄綬褒章を受章 • リサイクル推進功労者として農林水産大臣賞を受賞
2007年	• 第40回グッドカンパニー大賞でグランプリ受賞 • 塚越寛がインドネシア政府から功労賞を受賞
2008年	• 第6回日本環境経営大賞で最優秀賞の環境経営パール大賞を受賞
2012年	• 塚越寛が旭日小綬章を受賞
2015年	• 首相官邸国際広報室の文化事業「JAPAN LIBRARY」として『リストラなしの年輪経営』（塚越寛著）の英訳版が発刊され、世界中の大学や図書館へ寄贈された。同内容のダイジェストは日本政府が発行する広報誌「We are Tomodachi」に掲載され、2018年のダボス会議で世界のリーダーへ紹介された • THE WALL STREET JOURNAL(アメリカ)にて、トヨタ自動車様をはじめ日本の大企業が手本とする経営理念として、年輪経営が紹介された
2018年	• 塚越寛が渋沢栄一賞を受賞
2020年	• Bloomberg （アメリカ）にて、コロナ禍でも成長を続け、人を大切にする年輪経営が紹介された
2023年	• 塚越寛が食料産業特別貢献大賞を受賞

3. 会社概要

- 商号／伊那食品工業株式会社
- 代表者／代表取締役社長　塚越　英弘
- 設立年月日／1958年6月18日
- 資本金／9,680万円
- 年　商／227億円(2023年実績)
- 社員数／545名（2023年12月）

- 本社／長野県伊那市西春近5074
- 工場／沢渡工場、北丘工場、藤沢工場
- 支店／東京、名古屋、大阪
- 営業所／札幌、仙台、さいたま、長野、
  岡山、福岡

- 役員一覧

最高顧問	塚越　寛
代表取締役社長	塚越　英弘
専務取締役	塚越　亮
常務取締役	小口　知彦
取締役	湯澤　正芳
取締役	柴　克宏
取締役	大澤　寿
監査役	小松　浩明

- グループ会社

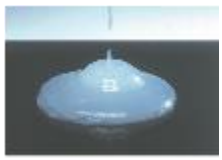
米澤酒造株式会社
ハマ園芸株式会社
有限会社ぱぱな農園

寒天の可能性を広げて

寒天は日本で発明されたユニークな乾物で、昔から冬期間のみ生産され、厳しい労働が伴っていました。伊那食品工業は、冬の厳しい労働から働く人を解放したいという思いのもと、1958年に設立されました。当社は、寒天のパイオニアとして、世界中から良質な原料を輸入・備蓄し、生産設備の合理化と拡大を図り、相場の安定を確立することで、寒天の近代化の歴史を実現して参りました。また、独自の技術をベースにした基礎研究から素材の探求を行い、新たな機能を持つ素材の開発に取り組んでいます。寒天をはじめとする水溶性多糖類の物性や形状を広げる事で、ところてんやみつ豆などの伝統的な用途に限らず、様々な食品、医薬品、化粧品などに市場を広げてきました。これからも、資源と人を大切にする年輪経営を継続しながら、魅力ある製品づくりを通じて社会に貢献できるよう努めて参ります。

とても硬い寒天

弾力性に優れた寒天



固まらない寒天

4. CSR方針

環境問題の深刻化に加え、人口減少による市場規模の縮小や個人の価値観が多様化する複雑な時代を迎えています。この様な時代の変化と共に、世界規模の指標や目標が具体的に示される世の中となり、各企業は社会へ貢献しながら、ステークホルダーと共に持続可能な活動を行うことが求められています。食品業界においても、お客様のニーズに合わせた多種多様な商品開発はもちろんのこと、安全性の確保や食品ロス、廃棄物の削減など、その要求は様々です。弊社では、これらの指標・目標について定期的に勉強会を開催して理解を深め、自社の経営理念に沿った活動を、より社会に貢献できるものへ更新すべく、PDCAサイクルを継続しております。

いい会社をつくりましょう ～たくましく そして やさしく～ ＊社是カードより

企業は本来、会社を構成する人々の幸せの増大のためにあるべきです。私達は、社員が精神的にも物質的にも より一層の幸せを感じるような会社をつくると同時に、永続することにより環境整備・雇用・納税・メセナなど、様々な分野でも社会に貢献したいと思います。したがって、売上や利益の大きさよりも、会社が常に輝きながら永続する事につとめます。

経済活動は「公益資本主義」へ向かう
＊『末広がりのいい会社をつくる』P.211

「公益資本主義」とは、ごく簡単に言うなら「会社はすべての人の幸せのためにある」という考え方だと受け止めています。（中略）企業は理念経営に徹して、技術を磨き、儲けたお金で社員を豊かにする。取引先からは適正価格で仕入れ、顧客と地域社会へ還元して、社会に貢献する。（中略）人々の幸せのために、得た利益を再投資していくことが、経営者の重要な役割です。そのためにも、遠きをはかり、年輪経営を重ねていくことが必要となります。

・国連「持続可能な開発目標(ＳＤＧｓ)」

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択され「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

・国連グローバル・コンパクト

国連グローバル・コンパクトは、2000年7月にニューヨークの国連本部で正式に発足し、2004年に開催されたサミットにおいて「腐敗防止」の項目が追加され、現在の形となりました。「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野・10原則を軸に活動を展開しています。

【　人権　】・原則１　：人権擁護の指示と尊重
　　・原則２　：人権侵害への非加担
【　労働　】・原則３　：結社の自由と団体交渉権の承認
　　・原則４　：強制労働の排除
　　・原則５　：児童労働の実効的な廃止
　　・原則６　：雇用と職業の差別撤廃
【　環境　】・原則７　：環境問題の予防的アプローチ
　　・原則８　：環境に対する責任のイニシアチブ
　　・原則９　：環境にやさしい技術の開発と普及
【腐敗防止】・原則10：強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取り組み・ＳＤＧｓ

WE SUPPORT
UN GLOBAL COMPACT

・認証への取り組み

自社のCSRについて、PDCAサイクルをより客観的に、より効果的に実行するため、グローバルなプラットフォームにおいて、自社の環境、労働と人権、倫理、持続可能な資材調達について評価を得る機会を検討しています。※2023年 ECOVADIS ブロンズメダル受賞

・日本経済団体連合会「企業行動憲章」

この憲章では、人権の尊重、法律や規制の順守、企業の倫理的行動や持続可能な開発への貢献を目的としております。

5．コンプライアンス規範

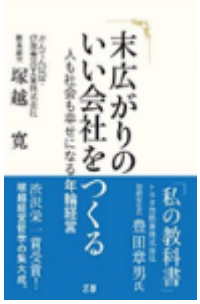
経営理念をもとに策定された伊那食品工業のコンプライアンス規範は、すべての役員、社員、パートタイマー、アルバイトを対象とし、以下の方法で実行されています。会社のあるべき姿を常に考え、地域・社会に貢献し、会社と関わるすべての人の幸せの実現を目的に、永続する会社を目指しています。

「性善説」に基づく経営　＊『末広がりのいい会社をつくる』P70

社員が幸せを感じ、高いモチベーションをもって働いていれば、誤った経費の使い方をする者はいなくなります。（中略）性善説の経営をおこなうためには、まず会社の目的を正しく定めることが欠かせません。社員の幸せ・みんなの幸せのために永続していくという会社の姿勢を鮮明にし、これに沿って一貫した経営をおこなっていると、性善説の経営が成り立ちます。

- **経営理念の理解**

当社関連書籍は、会社の食堂や応接室など、社員が自由に閲覧できる状況で保管されています。また、より簡潔に経営理念が纏められた名刺サイズの社是カードは、書籍と同様に全社員へ配布されています。



社是カード

＊「年輪経営」「いい会社をつくりましょう」「末広がりのいい会社をつくる」 etc.
これらの著書は社内教育に限らず、公に販売され、あらゆる人が自由にアクセスすることができる情報です。公に当社の経営方針を開示することは第三者から常にチェックされている状態といえます。当社では著書に書かれていることを実行するよう努力しています。

その他の刊行物として、社内報「さつき」は、本社での出来事や経営者からのメッセージを全国各地の社員へ伝える目的で、20年以上に亘って発行され続けています。

社員が一堂に会して役員講話や各部署からの情報共有を行う全社会議「月例会」を毎月継続的に実施しており、全国の支店営業所の社員もオンラインで参加しています。また、入社1年目、3年目、10年目などの節目には研修や懇話会など、経営者と社員が直接意見交流を行える場を設けています。

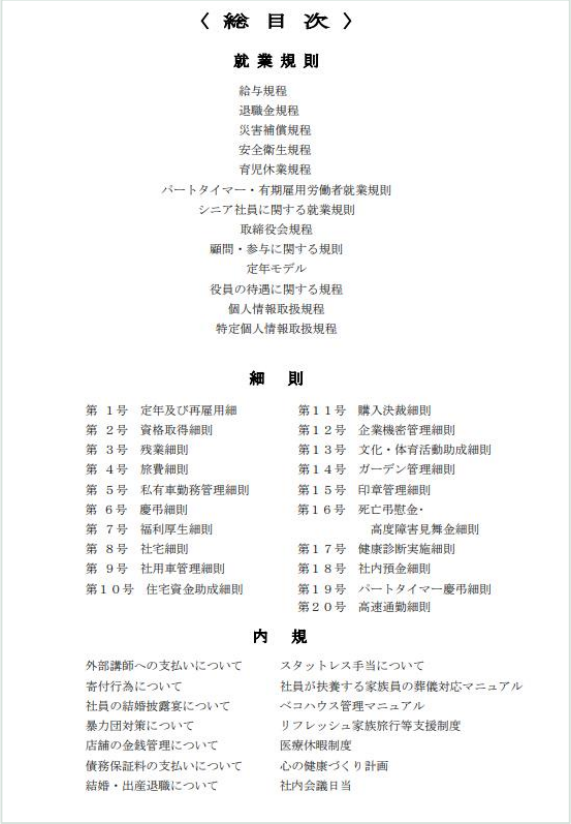
月例会

総務部による研修

就業規則

弊社では、労働基準法その他の関連法令に基づき、会社の秩序と規律を維持し、社員の人格を尊重しその生活の安定と向上を図るため、会社および社員が、互いに協力して社業の発展に努める規則として、就業規則を定めております。

この規則はすべての役員、従業員が体系的な研修を受け、アクセス可能な冊子に纏まっており、社員の相談ラインとして総務部に担当者を設置しています。



〈 総 目 次 〉

就 業 規 則

給与規程
退職金規程
災害補償規程
安全衛生規程
育児休業規程
パートタイマー・有期雇用労働者就業規則
シニア社員に関する就業規則
取締役会規程
顧問・参与に関する規則
定年モデル
役員の待遇に関する規程
個人情報取扱規程
特定個人情報取扱規程

細　則

第 1号　定年及び再雇用細
第 2号　資格取得細則
第 3号　残業細則
第 4号　旅費細則
第 5号　私有車勤務管理細則
第 6号　慶弔細則
第 7号　福利厚生細則
第 8号　社宅細則
第 9号　社用車管理細則
第１０号　住宅資金助成細則
第１１号　購入決裁細則
第１２号　企業機密管理細則
第１３号　文化・体育活動助成細則
第１４号　ガーデン管理細則
第１５号　印章管理細則
第１６号　死亡弔慰金・高度障害見舞金細則
第１７号　健康診断実施細則
第１８号　社内預金細則
第１９号　パートタイマー慶弔細則
第２０号　高速通勤細則

内　規

外部講師への支払いについて
寄付行為について
社員の結婚披露宴について
暴力団対策について
店舗の金銭管理について
債務保証料の支払いについて
結婚・出産退職について
スタットレス手当について
社員が扶養する家族員の葬儀対応マニュアル
ベコハウス管理マニュアル
リフレッシュ家族旅行等支援制度
医療休暇制度
心の健康づくり計画
社内会議日当

安全衛生規定

安全衛生委員会の設置と運営について規定しています。本委員会は、労働基準法その他法令ならびに就業規則に基づく、社員の安全および衛生管理に関して調査・審議し改善を図る目的で設置されています。

ハラスメント条項

総則第３１条にて、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント等、各種ハラスメントについての定義を明確にし、役員、社員に対してこれを禁止しています。また、ハラスメントが発生した際の相談窓口と解決手順についても規定しています。

第12号企業機密管理細則

企業機密漏洩の防止と、個人情報をはじめとする社内外の機密事項の適正な管理について、役員および社員に対して、管理及び保全に関する措置を定めています。

6. リスクマネジメント

社是「いい会社をつくりましょう」を実現するためには、食品メーカーとして堅固な食品安全マネジメントシステムを構築し、維持し、継続的な改善を図ることにより、安全で高品質な商品を提供することが重要と考えます。当社ではFSSC22000認証を取得し、食品製造における危害の分析とそれらの除去または低減のためにPDCAサイクルを運用して、安心と品質の向上に努めて参りました。関係法令の遵守は勿論、社会倫理に適合した健全な企業行動を実行し、お客様とのコミュニケーションを通じて、情報公開を適切に行い、商品への信頼を高める企業活動を継続的に行っています。また、災害等のリスクに対しては異常時対応手順書において重大なリスクを特定しその対応を計画し見直すことで、リスクマネジメントシステムを社内に構築して維持しています。また食品製造に限らず、トップマネジメント指揮のもと災害時のリスクヘッジへの取り組みも立案、実行しています。全ての社員は、リスクの予防的対策に努め、発生した場合には損失の最小化に努め、速やかな事業活動の正常化を図り、責任ある行動をとります。

- **危機管理組織**

当社のトップマネジメント(社長)は、働く人々の生命、身体、ならびに当社の財産、名誉　の保全に努め、業務の継続に重大な被害を及ぼす危機に効果的に対応するために、常にリスクヘッジを念頭に事業活動を執り行っています。

緊急事態が発生した際には、トップマネジメントが陣頭指揮を執り、顧客・取引先・従業員などの人命保護を最優先として行動し、事業の早期復旧に努めます。また社会的通念に照らし、社内外に対して迅速かつ的確に情報開示します。

社内へはトップマネジメントを発信元とする緊急連絡網および一斉配信できる携帯電話アプリを利用して速やかに情報提供を行います。これらの情報共有方法については定期的に訓練を実施しています。

・災害への備え

発災時に備えて、次の防災対策を推進しています。これらの実施状況を定期的に点検することでその適切性を確認しています。

(1) 地震時に備えて建物、設備等の耐震チェック、及び必要があれば耐震補強を行う。
什器備品、照明器具等には転倒、落下、割れ等の防止策を講じる。

(2) 火災時に備えて防火扉、火災報知器、消火器、消火栓等を整備する。

(3) 停電時に備えて非常灯、誘導灯、懐中電灯、非常用電源等を整備する。
必要があれば非常用燃料を備蓄する。

(4) 発災時の非常食、飲料水、救急セット、避難用はしご、ヘルメット等を整備する。

(5) 会社の緊急連絡網、社員の個人情報簿（住所、通勤ルート、緊急連絡先、携帯電話等）を整備する。

(6) 防災訓練として避難訓練、初期消火訓練、人命救助訓練等を毎年実施する。
また、防災危機管理（労災を含む）のための教育を実施し、意識啓発の研修を行う。

(7) 周辺地域の広域避難場所情報を入手し、整備する。

(8) 社員各戸における防災対策を推進し、奨励する。

(9) 衛星電話を設置してインフラの混乱時にも遠隔の支店営業所と連絡を取ることができるようしておく。

7. 調達方針

「四方よし」の考えに基づく調達方針

四方よしとは…

当社では江戸時代に全国で活発な商売を行っていた近江商人の考えである「三方よし」を、さらに発展させて「四方よし」という考えに基づき購買活動を行っています。「三方よし」とは買い手、売り手の利益だけではなく、社会に貢献してこそ有意義な商売である、という考えです。当社ではそれに加えて将来への影響も考えることを「四方よし」と呼んでいます。未来を見据えることで持続可能な成長を目指すことができると考えています。

四方よし　＊『末広がりのいい会社をつくる』P.140

江戸時代に全国で活発な商売を展開した近江商人は「三方よし」を心掛としていたと伝えられています。三方とは「売り手」と「買い手」、そして「世間」です。・・・中略・・・私はこの「三方よし」に「将来もよし」を加えて、「四方よし」の商売を心がけています。

- **取引先との関係**

当社では売り手と買い手は対等な立場であると考えており、お互いにwin-winとなる商売を心がけております。その一例として、取引先への送金の際には送金手数料を差し引くことはせず、全て当社が手数料を負担するようにしています。また、200年、300年と経営を続けてきた老舗から学び、仕入れ先を大切にすること、安いというだけで仕入れ先を変えないことを宣言しています。

安いからといって、取引先を変えない
＊『リストラなしの「年輪経営」文庫版』P.84

伊那食品工業では、仕入先もほとんど変えません。安い仕入先を探して、どんどん変えていくことは絶対にしません。むしろ、一度お付き合いをさせて頂いた仕入先は、大切に扱います。盆暮れの付け届けもしますし、無理な値切りもしません。

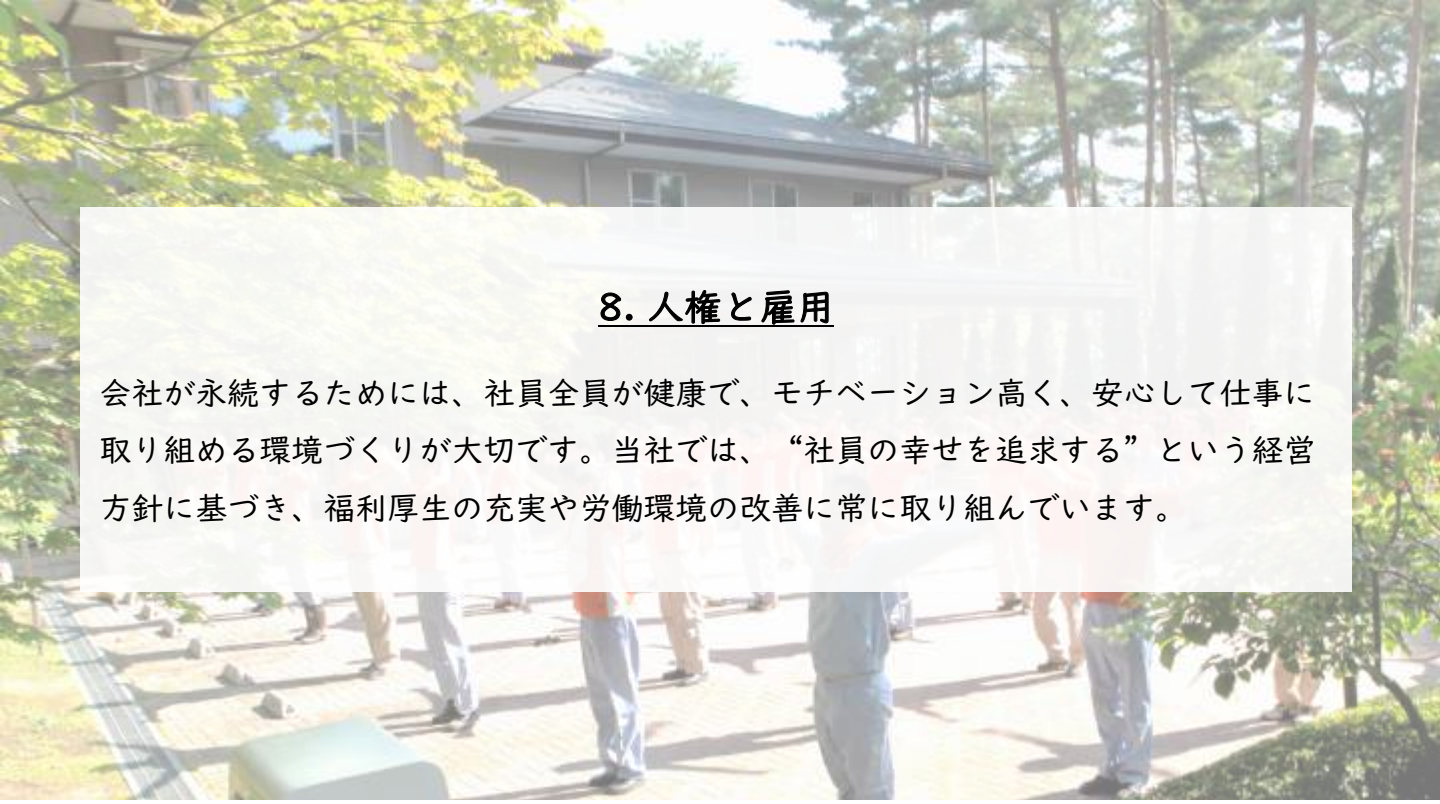
サプライヤー管理

当社の主な製造品目である寒天は海藻が原料です。１９７０年代から開発輸入を行い海外の原材料サプライヤーと友好な関係を構築してきました。当社は単純に海藻を購入するだけではなく、海藻養殖技術の指導や、寒天製造技術の提供を行ってきました。結果として当社の原料サプライヤーは海藻サプライヤー、寒天メーカーとして安定的な経営を行っており、各国の地域経済に寄与してきました。自社の利益だけではなく取引先の利益、社会、将来への貢献を意識した購買活動、事業活動を行っています。

また年に１回程度、当社研究員や技術者を派遣して製造工程の改善を行ったり、社長が直接訪問して経営的なアドバイスを実施しています。アドバイスにはサプライヤー会社社員の待遇や労働環境の改善、環境への配慮のための対策が含まれています。具体的には全体がビニールで梱包されていた海藻の包装材をなくし、紐での簡易的な梱包に変更をしました。また労働環境を考慮し、海藻１ベールあたりの重量を軽減してきました。加えてパレット積みで出荷を行うなど省人化を当社からのアドバイスで進めてきました。

社内教育

当社の購買活動に関わる全ての社員に対して、当社最高顧問塚越の著書「いい会社をつくりましょう」、「末広がりの年輪経営」を使って教育を行っています。当社の経営方針である「年輪経営」は木が毎年、環境の変化に影響されず着実に成長することから学び、末広がりの永続的な成長を目指すものです。急成長は環境への負荷や資源の枯渇、需要以上に生産することでの廃棄の発生など持続可能な成長という理念に反します。当社では低成長を掲げて、環境への負荷軽減、資源保護を意識した調達を行っています。この理念を浸透させるために社員教育をあらゆる会社生活の中で実施しています。具体的には新入社員研修や、定期年次研修、月一度の月例会での理念教育で「年輪経営」の考えを共有しています。また購買に関わる社員には取引先選定時の基準を設けて教育を行っています。例えば、取引先のCSRリスク評価、会社理念の調査、第三者認証の有無の確認を実施し、単に価格が安いだけでは購入をせず、長く取引ができ、地元地域や地球環境など社会にも貢献できる取引先を優先して選定するように教育しています。また、社内書類として新規伺い書を作成して、選定基準を明文化しています。

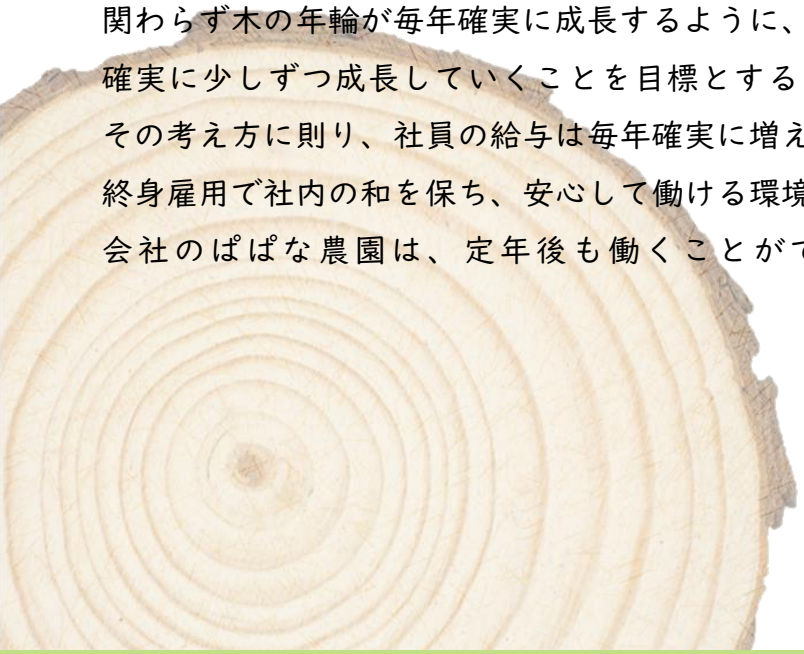


8. 人権と雇用

会社が永続するためには、社員全員が健康で、モチベーション高く、安心して仕事に取り組める環境づくりが大切です。当社では、“社員の幸せを追求する”という経営方針に基づき、福利厚生の充実や労働環境の改善に常に取り組んでいます。

◇ 年輪経営

当社では、“人件費はコストではなく、会社の目的そのもの”と考えています。天候に関わらず木の年輪が毎年確実に成長するように、社会の状況に影響されずに会社も毎年確実に少しずつ成長していくことを目標とする“年輪経営”という経営方針を掲げ、その考え方に則り、社員の給与は毎年確実に増えていきます。その他にも、年功序列や終身雇用で社内の和を保ち、安心して働ける環境を整えています。また、当社グループ会社のぱぱな農園は、定年後も働くことができる再雇用の場となっています。



◇ 社内制度

・社員の健康管理

当社の健康診断では、従業員に対し法定の項目に加え、全員に尿酸値検査、35歳以上に眼底検査・腫瘍マーカー検査、女性の希望者に乳がん・子宮頸がん検診、脳ドック補助（40・50歳）、人間ドック（5年ごと：40～55歳、2年ごと：58歳以上）を実施しております。また、会社負担でガン保険に加入しており、万が一社員がガンになった際にも、すぐに一時金を受け取ることができる体制を整えています。

健康こそ幸せの源。職場のリスクはできる限り軽減する
＊末広がりのいい会社をつくる P.20

人は健康でいてこそ、幸せに生きることができます。私自身が十七歳から二十歳までの三年間、肺結核という命にかかわる病気を経験し、健康のありがたさを痛感していますから、社員に病気やケガをさせてはならないという思いは人一倍強いと思います。

・社員の希望を尊重する人事制度

年に１度全従業員に人事考課を行い、個人の状況や希望を確認をしています。
“社員は家族”という考えのもと、人事異動に際しては、個人の家庭環境にも配慮しています。

安全を最優先に　＊いい会社をつくりましょう P.173～174

家族はできるだけ一緒に暮らしたいものです。私は勤務時間や交代制、転勤など、社員の暮らしのリズムに大きな影響をもたらす事柄についても、より自然に近いかたちを選ぶ工夫と努力を心がけてきました。

・労働環境の改善

社員の幸せを追求する当社では、職場環境の改善を積極的に行っています。事務所は長野の寒い冬も快適に過ごすことができるよう床暖房を完備しており、パソコンなどの機器もなるべく新しいものを支給しています。工場では、現場から挙げられる改善提案の大半を実行し、品質・生産性・安全性の向上、社員の負担となっている仕事の自動化を進めています。一例として、力仕事が多い工場で働く社員の負担軽減のため、自社でパレタイザーを設計し、設置しました。

社員の幸せを通して社会に貢献したい　＊いい会社をつくりましょうP.31～31

「自分は、一緒に力を合わせた社員のために、何ができるのか。どうすることが正しいのか」と自問を繰り返したものです。（中略）「どうやったらもっと社員が楽になれるか。どうやったらもっと快適になるのか」と考えつづけたことが、当社の歴史であったと思います。

・子育て支援制度

ライフステージが上がっていけば、必要なお金も増えていきます。経済的にも安心して子育てができる環境づくりのため、年収が毎年上がっていく年功的な賃金体系を維持しており、子供のいる社員に対しては一般的な企業よりも多くの扶養手当を支給しています。育児休暇は女性だけでなく男性も取得するよう積極的に取り組んでおり、ここ数年は男性社員も毎年育児休暇を取得しています。時短勤務については、法定で２歳までのところ、当社では子供が9歳になるまでの時短勤務が可能です。また、リフレッシュ支援制度を設け、家族のための有給休暇取得を促しています。

年功序列は永続企業の自然の姿　＊末広がりのいい会社をつくるP.106

社員の立場に立ってみれば、年功序列型は大きな安心の源です。（中略）
その安心感は、社員の幸せを支える大きな要素だと思います。

・“女性活躍”に関する取り組み

ジェンダー平等への取り組みとして、これまで男性のみで行っていた力が必要とされる業務も、自動化や機械化を進め、男女関係なく誰でも行えるように改善を行っています。2021年～2024年の三年間での行動計画をたて、女性が仕事を続けやすい環境づくりを進めています。また、一度退職し育児に専念していた元社員で再就職の意欲のある方は、条件が合えば優先して再雇用を行っています。

資格受験料補助

社員のスキルアップのため、会社が認める資格試験の受験料を補助しています。知的財産管理技能士・衛生管理者・貿易実務検定・フォークリフト・電気工事士・危険物取扱・調理師など業務上必要な資格は全額、食品表示検定や総菜管理士など自己啓発の一環として希望者が受験する資格は、合格者に対し半額の補助を行っています。

住宅補助

自宅から通勤ができない社員や全国の支店営業所に配属となった社員に対して住居費の補助を行っております。伊那エリアに居住の社員は相場の半額ほどで社員寮に入居することができます。また、降雪の多いエリアに勤務する社員に対し、出勤前に雪下ろしや雪かき、暖機運転をする必要がないよう、車庫を建てる際には一律10万円を支給しています。

・社員旅行

社員旅行を廃止する企業も多い中、当社では45年以上前から毎年国内・海外交互に社員旅行を行っております。業務に支障が出ないよう配慮し、12～13班に分かれて実施しています。国内旅行では日本全国の温泉地や観光地、海外旅行ではヨーロッパやオセアニア、北米、アジア圏など、用意された10ほどの候補地から希望の旅行先を選択することができます。費用については、国内旅行は5万円、海外旅行は9万円を会社から補助しています。

楽しい社員旅行　＊いい会社をつくりましょうP.175～176

目的は、慰安や親睦をはかることのほかに、見聞を広げてセンスを磨くことです。宿や食事は質の高いところを選びます。（中略）上質な空間を知ることで、マナーを身につけ、モラルを高めることもできます。そうやって養われた新鮮な見方や考え方は、やがて発酵して、貴重な智恵となってくれるのです。

・クラブ活動

当社では６名集まればクラブを設立することができます。現在、バスケットボール・バレーボール・バドミントン・テニス・ランニング・フットサル・ソフトボール・ワンダーフォーゲル・華道・茶道など多くのクラブが活動しており、その活動費を会社が年間最大６万円補助しています。

9. 環境方針と地域貢献

当社は「会社も街づくりの一環」という思いから、会社周辺の環境整備や、環境問題への取り組み、地域貢献に力を入れてきました。「会社は企業活動だけではなく、社会に対しての責任も果たすべき」と私たちは考えます。天然物である海藻を原料とする寒天メーカーとして環境のためにできること、また、伊那谷に生きる会社として地域のためにできることを、次の方法で実行しています。

「苔むす会社を目指して」
＊『リストラなしの「年輪経営」文庫版』 P.59

私は「働く場を緑に囲まれた快適な環境にすれば、社員はみんな喜んでくれるに違いない。そして、幸せを感じてくれるはずだ」と考えました。そして、美しい町づくりにもつながるはずだとも思ったのです。
（中略）きれいなガーデンを見て、「いい会社だなあ」と感じてくださるお客様は多いようです。（中略）毎朝、毎朝、社員たちが手入れや掃除をしているのを知って、地元の人たちも感心してくれます。ささやかながら地元のイメージアップにも貢献できているのであれば、嬉しい限りです。

「永続の秘訣『ファンづくり』」　＊末広がりのいい会社をつくる P.148

当社で倉庫の建設を予定していた敷地に隣接して、未舗装の細い市道がありました。地域住民の生活道路であり、通勤時間帯には多くの自動車で混雑する道でした。そこで、当社の土地を寄付して道路を拡幅・舗装し、信号の設置費用まで全額を当社が負担して、市に寄付しました。少なからぬ出費となりましたが、渋滞は緩和され、近隣の住民に喜ばれましたから、損をしたとは思いませんでした。（中略）当社ではこのような社会貢献を、今後もできるだけおこなっていきたいと思います。

◇ 当社施設周辺の美化・緑化

■ かんてんぱぱガーデン

「会社も街づくりの一環、社員や地域の人など、訪れるみんなが憩える空間に…」というコンセプトのもと、約3万坪の当社敷地には、本社社屋、工場のほか、レストラン、喫茶、美術館、健康パビリオンなどの施設もあります。ここを『かんてんぱぱガーデン』と呼んでいます。かんてんぱぱガーデンでは豊かな自然の中、四季折々の草花や景色をお楽しみいただけます。現在では年間40万人ものお客様にお越しいただけるようになりました。東京ドーム約２個分と広い敷地ではありますが、木々の剪定や花の世話はすべて私たち社員の手で行っています。

・ 山野草園

かんてんぱぱガーデン内にある「山野草園」では、40種類以上、四季折々の山野草が群生しています。開花情報はホームページやインスタグラムで発信しており、山野草を見たり写真を撮ったりするお客様が県内外から多くお越しになります。

- **自然を保護しながら開発**

1987年に整備を始めたかんてんぱぱガーデンは、一本でも多くの木を残したいという想いから、ありのままの形を残しながら開発してきました。樹木が施設や日当たりに影響を及ぼす場合も、伐採してしまうのではなく、手間をかけても保護を優先して木を移植するなど、可能な限り自然を保護しています。

- **敷地内のアカマツの保護**

マツクイムシによる松枯れを予防するため、定期的にかんてんぱぱガーデンのアカマツ約700本に樹幹注入を行っています。また、防虫や景観保護のために、生え変わるアカマツの表面の皮むきを毎年行っています。

アカマツ400本に薬剤注入

生態系考え松くい虫防除

伊那食品工業

伊那市の食品メーカーが、野ヒバ根市まで迫った松くい虫被害の予防対策に取り組んでいる。三月までに会社敷地にあるアカマツ約四百本に薬剤を注入する。上伊那地方事務所林務課は「被害低下を防ぐ意味からも効果的」としている。

同市西春近の伊那食品工業は敷地内に樹齢五十年の赤松が約八百本ある。松を枯らす主因、マツノザイセンチュウを運ぶ昆虫マツノマダラカミキリが飛び始める六月を見据え、三月までに薬剤注入を済ませる。

このうち約四百本にドリルで穴を開け、薬剤を一月から注入している。

予防法には薬剤散布もあるが、「周辺の生態系への影響も考え薬剤注入にした」同社。費用は約六百万円という。

工業は敷地内の樹齢の生態と防除効果を考え、落ちる恐れる昆虫や松を守り、少しでも侵入を食い止めることができれば」と、企業の本格的な松くい虫対策は珍しいという。

たことから、「観光客も訪れる昆虫や松を守り、少しでも侵入を食い止めることができれば」と、今年初めて取り組んだ。

隣の宮田村や、同市内マツノマダラカミキリが

は林業のほか観光林へ

町村でもマツノマダラカ

の影響も懸念される。市

ミキリの原因解明に意」

た松の伐採を呼び掛けて

おり、被害をなるべく抑

える取り組みが大切」と

制としている。

同課は「珍しい虫被害

アカマツ1本1本に松くい虫被害防止の薬剤を注入する作業が続く

長野日報 2006年2月14日付

・コケの生育、保護

かんてんぱぱガーデンには、コケに覆われている箇所が多くあります。コケは木のあるところ、さらに掃除の行き届いた場所でないと着生しません。毎朝の掃き掃除に加え、夏場は水やり、冬場は霜が降りないよう敷き松葉をし、コケの保護に努めています。

「苔むす会社でありたい」　＊いい会社をつくりましょう P.242

苔は、有機質を嫌います。落ち葉などが積もっているところでは、苔は育ちません。京都のお寺などに見られるような美しい苔庭は、毎日、きれいに掃き清められているからこそ、保たれているのです。当社でも、社員たちが毎朝、ガーデンの掃除や植栽の養生をしています。苔が生えていることは、掃除が行き届いてることのあかしでもあるのです。

- **花の手入れ**

かんてんぱぱガーデンでは、花壇やプランターにたくさんの花を植えています。季節によって花を入れ替え、お客様や社員が気持ちよく過ごせるよう整備しています。かんてんぱぱガーデンを彩る花は主にグループ会社のハマ園芸のもので、仕入れと同時に適切な育て方を学びながら社員が大切に育てています。

- **ハマ園芸**

かんてんぱぱショップが安曇野市の“HAMAフラワーパーク”に出店したことがきっかけとなり、 2020年からグループ会社となりました。ハマ園芸が大切にしてきた安曇野という魅力的な土地から長野県を盛り上げるという目標に向かい、共に第２のかんてんぱぱガーデンをつくりたいと考えています。

■ 環境関連 表彰

- **平成５年度緑化優良工場表彰**
  財団法人日本緑化センター会長賞　受賞

工場立地法の精神を踏まえ、工場緑化を積極的に推進、環境向上に功績のあった特定工場を表彰するものです。最高顧問塚越の「単なる生産の場ではなく、工場もまた美しい街づくりに参加すべき」という理念に基づき、敷地面積23,700㎡のうち12,300㎡を緑地としています。（平成5年当時）

伊那食品工業北丘工場
工場緑化で優良表彰

長野日報 1993年9月22日付

- **第6回日本環境経営大賞　最優秀賞の環境経営パール大賞　受賞(2008年)**

環境経営の理念に基づく実践活動とその成果認められました。

- **「平成２８年度渋谷区きれいなまちづくり功労者」表彰**

東京支店（渋谷区）…支店前の公園の清掃・管理
この表彰は「きれいなまち渋谷をみんなでつくる条例」に基づき表彰を行うもので、きれいなまちづくりの活動において顕著な功績をあげ、区の美化推進活動の発展に大きく寄与した個人・団体を表彰するものです。

（引用：渋谷区ホームページ
https://www.city.shibuya.tokyo.jp/kusei/koho/photo/2016_2news.html）

・ 海ごみゼロアワード　審査委員特別賞 受賞

環境省と日本財団の共同事業として開催した「海ごみゼロアワード2019」において、当社の「脱プラスチックに貢献する可食性フィルムの研究開発」が最優秀賞に次ぐ審査員特別賞を受賞しました。

寒天材料「食べられるフィルム」本格製造

伊那食品工業
新工場建設へ

ごみ削減 多様な用途提案

伊那市西春近に建設予定の新工場のイメージ図

信濃毎日新聞 2015年4月4日付

「海ごみゼロ」伊那食品工業表彰

審査委員特別賞

表彰式であいさつする伊那食品工業の塚越専務（右）と研

環境省と日本財団は17日、優れた海洋ごみ削減の取り組みを選ぶ「海ごみゼロアワード」の表彰式を東京都内で開き、食べられる「可食性フィルム」を製造する伊那食品工業（伊那市）に審査委員特別賞を贈った。寒天を原料に開発し、調味料や乾麺の包装に使われている同フィルムが、プラスチックごみの削減に貢献していると評価された。

伊那食品工業は2005年から可食性フィルムの開発を本格化。寒天の配合を変え、強度や溶け具合を調整して商品化した。無味無臭のため、溶けても料理の味に影響が出ない。同社によると現在、年間約

寒天原料「食べられるフィルム」

に貢献しているという。ストロ
や化粧品の包装への応用も検討し
いる。

表彰式には塚越亮専務と、同社
究開発部の落俊行さんが出席。表
状を受け取った塚越専務は「引き
き知恵と技術を使って環境負荷の
い製品づくりに励みたい。『海な
県』からの情報発信で、日本全国
世界に広がることを期待している
とあいさつ。落さんも「地道に開
してきた商品が認められた」と重
を語った。

海ごみゼロアワードには、全国
ら「アクション」「アイディア」「
ノベーション」の3部門に計25
件の応募があった。最優秀賞には
荒川でのごみ拾い活動と環境教育
携わる「荒川クリーンエイド・フ

中日新聞 長野版　2019年6月27日付

＜可食性フィルム＞　脱プラスチックに貢献する研究

当社製品「クレール」「トンボのはね」は海藻などの天然素材から生まれた、食べられるエコフィルムです。熱水に溶けるため、インスタントスープの粉末調味料をこのフィルムで包装することで、お湯を注ぐと溶けてなくなり、ごみになりません。また、コンビニエンスストア等で販売されているチルド麺において、麺と半固形のスープを分けているプラスチックフィルムを可食性フィルムにすることで、プラスチックごみの削減になります。

■ ぱぱな農園

日本の農業は高齢化が進み、休耕している農地が増えています。そのような遊休農地の有効活用を目的に設立されたのが、グループ会社である有限会社ぱぱな農園です。ぱぱな農園では、伊那谷の四季を彩る原風景を維持し、地域を活性化する新たな農業を開拓するとともに、農業に将来性を見出す若い担い手づくりを目指しています。また、土づくりから販売まで一貫供給性をとりながら、当社の研究開発部と協力し、6次産業化にも取り組んでいます。

田植えや稲刈り、トウモロコシやリンゴの収穫、野沢菜の収穫や漬け込み作業には他部署の社員も参加し、グループ全体で協力して行っています。ぱぱな農園で収穫された野菜や果物、お米は、当社施設や支店・営業所の売店でも販売しています。かんてんぱぱガーデン内のレストランでも使用しており、多くのお客様からご好評いただいています。また、グループ会社の米澤酒造の酒粕と、ぱぱな農園の野菜を使った農産加工品を製造・販売しています。

養土藻（ようどそう）

海藻から寒天をつくる過程では、寒天を抽出した後、大量の海藻残渣が排出されます。これを再利用してできるのが、他では類を見ない海藻肥料「養土藻」です。たっぷりとミネラル分が含まれており、養土藻をお使いの農家の皆さんからは「甘みが増した、実入りが高まった」などの高評価をいただいています。

当社では、1990年から海藻残渣の再資源化に取り組んできました。1996年には、その取り組みが評価され、リサイクル推進功労表彰で農林水産大臣賞を受賞しました。かつては年間1,500万円ほどをかけて処理していた廃棄物ですが、リサイクルし肥料にすることで、今では増益にも繋がっています。

■工場での取り組み

- **発電**

脱炭素の策として３つの工場とR&Dセンターに太陽光パネルを設置しています。なかでも藤沢工場には269.80kWの太陽光パネルを設置し、年間約28万kWhの電力を賄っています。藤沢工場では画像のE棟に加え、A棟・B棟にも増設しました。

- **LNG（液化天然ガス）**

藤沢工場では2006年に環境負荷の低いLNG（液化天然ガス）をいち早く導入しました。天然ガスは他の燃料に比べて、燃焼時の二酸化炭素や窒素酸化物の排出量が少なく、硫黄酸化物を排出しない環境負荷を抑えたエネルギーです。

- **自然冷媒の使用**

沢渡工場にある冷凍棟では、冷凍に使用する冷媒を、フロンをやめ、自然冷媒であるアンモニアを使用しています。

- **排水**

最新の浄化槽を新設することで、寒天製造時の排水は安定した浄化能力で処理され、排水基準を大幅に下回るレベルで排出しています。

環境データ

電力消費量　(MWh)　※長野県内当社全施設の総合計（グループ会社含む）

2021年	2022年	2023年
11,107	12,236	12,080

太陽光発電量　(MWh)　※伊那市内当社施設の総合計

2021年	2022年	2023年
493	728	728

上水使用量　(㎥)　※伊那市内当社全施設の総合計

2021年	2022年	2023年
16,585	16,814	12,645

CO2排出量（t−CO2）※当社全施設の総合計（自動車は除く）

2021年	2022年	2023年
8,223	8,554	9,089

海藻残渣リサイクル量（t）※海藻肥料「養土藻」への再生

2021年	2022年	2023年
2,352	2,800	2,750

◇ 地域貢献

■ 土地や文化の保全

後継者不足により継続が難しくなった酒蔵の支援や建物の管理・改修、農業法人運営による農地荒廃防止など、様々な分野において地域のサポートを行っています。

会社の永続に利益は必要。問われるのは「利益の使い方」
＊末広がりのいい会社をつくる P.128

地域貢献として、荒廃農地を買い取って農業生産法人を設立したり、経営に苦しむ企業に出資したりしてきました。利益の使い方は、自社の事業の延長線上だけではなく、「社会問題の解決」を念頭に置いて考えるべきだと思っています。

- **かんてんぱぱショップ 小布施店**

長野県小布施町にある「かんてんぱぱショップ 小布施店」は、180年余使われてきた古民家を改築した店舗です。「昔の小布施を代表する建物」として町が選定する景観賞を受けた古民家を、保存しながら改修していくという“まちづくりにかける想い”に共鳴し、地域貢献の一環として出店を決めました。小布施町の中心地に今も残る茅葺屋根を残す取り組みとして、屋根の葺き替えも行っています。

・米澤酒造

グループ会社である米澤酒造は、1907年（明治40年）中川村大草にて創業した造り酒屋です。南アルプスの伏流水に恵まれたこの地で、酒米は地元産を優先して使用し、今では珍しくなった酒槽でもろみを搾っています。2014年（平成26年）、後継者や施設の老朽化などの問題で継続が困難になっていたところを、資源や技術、販売の面で支援するため、当社のグループ会社となりました。美しい農村の原風景を残すため、村内で休耕地化が進む棚田を利用して酒米を栽培し、田植え、土手の草刈り、稲刈りをグループ全体で担っています。

【世界酒蔵ランキング】４年連続ランクイン

日本酒コンテストの結果で600以上の蔵を格付けする「世界酒蔵ランキング」に、2020年から４年連続で10位以内（最高評価となる５つ星の評価)にランクインしています。各コンテストにて高評価をいただき、ベスト10の酒蔵の中で最も少ない出品数ではありましたがランクインすることができました。

米澤酒造 受賞歴

2014年にグループ会社となって以降、多くのコンテストで賞をいただいております。
以下は主な受賞歴です。

● 年輪 純米大吟醸

・全米日本酒歓評会 2021-2023年 金賞
・Kura Master 2023年 プラチナ賞

● NENRIN S 純米大吟醸

・2023 G7 外相会合 夕食会にて提供
・全国新酒鑑評会 2022～2023年 金賞
・Kura Master 2023年 金賞

●今錦 純米大吟醸

・Kura Master 2020 -2021年金賞
・全米日本酒歓評会 2020 - 2023年金賞
・IWC 2020～2021年 金賞
・フェミナリーズ世界ワインコンクール
2021 - 2022年 金賞
・長野県清酒品評会 2020年 県知事賞
・関東信越国税局 酒類鑑評会 2020年 優秀賞
・ワイングラスでおいしい日本酒アワード 2022年 金賞

●今錦 純米吟醸 美山錦

・ロンドン酒チャレンジ 2020年 金賞
・全米日本酒歓評会 2020年, 2023年 金賞
2021- 2022年 銀賞
・全国燗酒コンテスト 2021- 2022年 金賞
・IWC インターナショナル・ワイン・チャレンジ
2023年 金賞
・SAKE COMPETITION 2023年 金賞
・CINVE 2023年 CINVE大賞（最高賞）

●今錦 特別純米酒

・ワイングラスでおいしい日本酒アワード
2021年 金賞 / 2022年 最高金賞
・全米日本酒歓評会 2020年 準グランプリ
2021年～2023年 金賞
・全国燗酒コンテスト 2021- 2022年 金賞
・Kura Master 2020年 金賞

●今錦 純米吟醸 金紋錦

・全米日本酒歓評会 2020 - 2023年 金賞
・フェミナリーズ世界ワインコンクール 2022年 金賞
・Kura Master 2022年 金賞
・IWC インターナショナル・ワイン・チャレンジ
2020 - 2022年 銀賞 2023年 金賞
・SAKE COMPETITION 2023年 銀賞
・CINVE 2023年 銀賞

●中川村のたま子 特別純米酒

・全国燗酒コンテスト 2021年 金賞
・全米日本酒歓評会 2021年 金賞
2023年 金賞 / グランプリ
・Kura Master 2020 - 2021年 金賞
・CINVE 2021年 金賞
・ワイングラスでおいしい日本酒アワード 2022年 金賞
・ミラノ酒チャレンジ 2022年 金賞

●今錦 梅酒

・フェミナリーズ世界ワインコンクール
2020年 - 2021年 金賞
・ミラノ酒チャレンジ 2022年 金賞
・Kura Master 梅酒部門 金賞

■ その他 取り組み

・ 雇用創出

社会の状況に関わらず、毎年30名前後の社員を新規採用しています。地域の雇用を創出し、若者の定住および地域の人口増加に微力ながら貢献しています。また、海外の協力工場の生産技術・品質の向上のため、現地へ出向いての技術提供を行い、協力工場の雇用創出にも寄与しています。

雇用の場を確保する　＊末広がりのいい会社をつくる P.90～91

製造業の会社を中心に、自動化・ロボット化の進展により雇用不安が課題となっています。（中略）そこで当社では、雇用機会を広げるために、新たな事業や部門を設けてきました。

・ 自社敷地内外の清掃活動

当社では、毎朝社員が自主的に自社敷地内の清掃を行っています。敷地内の管理・清掃はもちろん、近隣の道路の清掃や降雪時の融雪剤散布などにも協力しています。

・ 健康管理の場の提供

2008年に設立した当社R＆Dセンターの１階は、健康パビリオンとして一般の方々に開放しています。様々な測定を基本的には無料で行うことができ、地域の方々や観光でお越しになったお客様にご自身の健康についての理解を深めていただける施設となっています。また、2020年に設置された長野県初の認定栄養ケアステーションでは、管理栄養士に食習慣等の相談をすることも可能です。

・**歩道橋の設置**

かんてんぱぱガーデンの敷地は、交通量の多い農道を挟んで２つに分かれています。お越しくださったお客様や当社社員が安全に往来できるよう、自社で歩道橋を設置しました。安全を確保した当社敷地は、周辺の小学校に通う児童たちの通学路としても利用されています。

伊那食品、公道に歩道橋

珍しい民間の設置

工場と駐車場結ぶ広域農道に

事業費は4千万円

長野日報 1994年6月9日付

・**かんてんぱぱ祭りの開催**

お客様や取引先の方々など当社に関わるすべての方に感謝を伝える日として、伊那市のかんてんぱぱガーデンにて年に一度“かんてんぱぱ祭り”を開催しています。当日は多くの屋台が並び、広場やホールではイベントが行われます。社員総出で作り上げるこのイベントは大変好評で、毎年約１万人のお客様がお越しくださいます。また、別日程で支店・営業所でも開催しております。

・イベントへの協賛

地域のスポーツ大会やコンクールなどのイベントに積極的に協賛しています。また、長野県のプロサッカークラブ松本山雅FCをスポンサーとして応援しており、スポーツを通して地域の活性化にも貢献したいと考えています。

かんてんぱぱ SBCこども音楽コンクール

激走！春の高校伊那駅伝

・自社施設の貸出や無料開放

当社かんてんぱぱガーデン内や直営店の展示スペースで定期的に展示会等のイベントを開催し、地域交流や文化活動の場を提供しています。

・渋滞防止のための右折禁止

かんてんぱぱガーデンの敷地は大きく２つに分かれおり、その間を通る広域農道は通勤時多くの車が行き交います。右折による渋滞でご迷惑をおかけしないよう、出勤時社員は右折せず迂回して敷地に進入しています。

「上」の人・「一流」の会社をめざす　＊末広がりのいい会社をつくる P.74

人の生き方においても、会社経営でも、教育の基本は、「人に迷惑をかけてはならない」ということだと思います。（中略）当社は少なくとも周囲の人に迷惑をかけない会社でありたいと思います。できるなら世の中の役に立つ会社になりたいと願っています。

・当社経営方針“年輪経営”の発信・講演会の実施

当社の経営理念である“年輪経営”についての当社最高顧問の塚越の著書は、累計発行部数１５万部を超え、多くの経営者の方々に賛同いただいています。さらに多くの方にこの経営理念を知っていただき、社員の幸せを追求する企業を増やすべく、可能な限り取材や講演会の依頼をお受けしています。近年では経営者の方々のみならず、学校の授業でも題材として取り上げていただくようになり、長野県に限らず全国の若い年代の方々にも知っていただけるようになりました。

伊那食品工業株式会社　CSR推進係